

邑楽町パブリックコメント募集結果報告書

件 名		邑楽町第七次総合計画・第3期邑楽町まち・ひと・しごと創生総合戦略・第六次邑楽町行政改革大綱の策定
募 集 期 間		令和7年9月1日～9月30日
結果	提出者数	4人
	意見数	22件
	提出方法内訳	電子メール 3人・直接 1人
意見等の概要と実施機関の考え方		
整理番号	意見等の概要	実施機関の考え方
01	3. 学校教育／オーガニック給食 P18, 町民広聴会：オーガニック給食の導入について意見があるが、オーガニック給食導入についての記載がない。P37（3）学校給食の充実、安心安全な学校給食の提供欄に、オーガニック給食導入の文言追加をお願いします。 P19, 今後のまちづくりの課題、1～5のすべての課題を解決できることの一つがオーガニック給食である。オーガニック給食はあくまで入り口。給食実現の先には、子どもから高齢者まで健康で元気に暮らせるまちづくり、活力と魅力のある持続可能なまちづくりが可能である。 食の安全で、邑楽町の活性化！	食の安全については、ご意見のとおり、子どもから高齢者までの健康確保において重要と捉えています。国や県の指針に基づき地産地消を推進することで新鮮な食材を確保し、安全安心な給食を提供していきます。 オーガニック食材の確保には、コスト面や生産量の課題があり、本計画においては、安全安心な学校給食の提供という表現をさせていただきます。 また、取組として「オーガニック給食の調査研究」を追記します。
02	3. 学校教育／オーガニック給食 P18 町民広聴会にてオーガニック給食導入の記載があるが、P37の学校給食に関わる文章にはオーガニックについて触れていない。オーガニック給食はP19の今後のまちづくりの課題1～5全てに関わり、改善すべき一つの手段となる。オーガニック給食を追加すべきと考える。	(同上)
03	3. 学校教育／オーガニック給食 1. 子どもの健康を守るために 農薬や化学肥料の使用をできるだけ減らしたオーガニック食材は、子どもたちの健やかな成長を支えるうえで安心できる選択肢である。アレルギーや体調への影響も懸念される中、安全性	(同上)

	の高い食材を取り入れることは大切と考える。 2. 地域農業の活性化につながる 地元の有機農家やオーガニック農業に取り組む生産者から食材を仕入れることで、地域経済の循環や農業の持続可能性を高めることにもつながる。まずは一部の食材（米や野菜など）から段階的に導入することも可能かと思う。子どもたちが安心して食べられる給食を実現できるよう、ぜひ前向きに検討いただきたい。	
04	15. 農業振興 国でオーガニックビレッジ宣言を掲げているが、P61 有機農業に触れる文言が入っていない。SDGs の水、陸の豊かさを守ることや、周辺住民への環境配慮、環境保全につながる。また、地球温暖化の原因にも関わる。今の時代に合った多様な農業の未来のためにも有機農業に関する内容を追加すべきと考える。P19 にもあるように時代の変化への対応が求められる。	環境の負荷に配慮した農業の推進を目指し、行政の取組に「環境負荷低減農業の推進や低コスト生産などについての情報発信」を追加します。
05	6. 芸術文化振興 P43 幼少期から文化芸術に触れる機会の提供とあるが、幼少期は具体的に何歳からを示しているか？ 未就学児の参加が不可能な音楽コンサートが過去に多く感じており、0歳から芸術に触れる機会をつくってほしい。近隣の都市では未就学児も参加できるイベントやコンサートが開催されており、足を運んでいる。	一般的な幼少期は1歳頃から12歳頃までといわれており、幼少期の文化芸術体験は重要と考えます。生涯学習課中央公民館では、11月22日に「0歳から楽しめるクラシックコンサート」を開催します。今後、未就学児が参加できる公演等を計画する際の参考とさせていただきます。
06	SDGs の推奨 問題点：・目標のスケールが大きすぎる ・矛盾点がある ・クリーンなエネルギーと安価なエネルギー供給の対立 ・莫大な費用等 意見：抜粋し邑楽町に対応した目標・指針の考えで行っていく（達成感が感じられる。達成すれば、そこからレベルを上げる）	本町においては、これまでも、SDGs の目標を地域課題にあてはめ、対応可能な施策に対応することとして整理しています。 また、毎年度、施策の達成度評価を実施し公表しており、今後も継続する予定です。
07	1. 子育て支援 ・共有問題と捉えている、いないとの差がある ・民間の意見を聞いてみる（ヤクルト等）	本町では、子どもは、次代を担う宝として、子どもたちや子育て世代を支援しています。

	・子供を見ていない人達にも苦労が少しでも解るように町の広報等に体験談等を載せる（自分も解ってない一人）	審議会等において民間の方々の意見も聴きながら進めています。今後ともご意見を参考に、情報収集・情報発信を継続していきます。ご理解とご協力をお願いします。
08	3. 学校教育 ・外国人の児童生徒の日本語指導支援者の適切配置とあるが、これは学校教育の問題ではないような気がする。日本人ルールが解らない子供が、日本人ルールで生活している子供との共存は難しいと思う。まずは両親に日本人ルールの教育をして理解する事が必須と考える。これらにかかる費用が町費であるならその費用を給食や学校設備に充てるべき。 ・日本語の指導は、国や県が持つべき。 ・歴史教育の強化、他国や団体からの圧力があるので、他国ではどう教えているのかも教える（抗日を利用している国もある） ・道徳と愛国心（愛町）の強化	本町において、外国人住民が地域の一員とし共生していくことは重要であると認識しています。ご指摘の内容を踏まえ 22. 人権・共生での記載といたします。
09	デジタル技術の有効活用 問題点 ・費用の高額化 ・A I 活用により自分で考える能力の低下 ・有害サイトへのアクセスを覚える ・安易に犯罪に関わる ・犯罪に巻き込まれやすい ・諸外国でも問題になっている ・読み書きが出来なくなる ・辞典の活用が出来なくなる ・機器の故障・破損・不良が発生する ・他にも弊害が（健康被害など）ある 意見・提言 ・紙媒体の有効性も証明されている ・通常授業に組み込むのではなく、別の科目の一つとする ・数十年前から言われている事で、都会の学校より田舎の子どもの方が賢いと、それは型に決まった教育ではなく、教師が生徒と向き合った教育を行っていたからではと思う	今後のデジタル社会の発展を見据え、ご指摘いただいた弊害やリスクについても教育の一環として取り扱っていきます。国や県などとも連携しながら町民や教員のデジタルリテラシーの向上に努めます。 また、学校教育については、さまざまなご意見を参考にしながら「邑楽町教育大綱」に基づき実施していきます。

	・現状、犯罪を起こす教師、保護者のクレーム、マスコミの偏った報道、関係者との談話により学校教育の難しさは切実だと思う ・教師、子供を守る為に学校内に安全を守る監視人を置く（新しい事業の一つ） ・どこまで叱ってよいかとの契約（保護者との） ・叱るという行為の教師の講習 ・日教組の活動内容を町が把握しておく ・役場も学校内の状況を知っておく（教育機関も閉鎖的な風潮があるので）	
10	4. 社会教育 5. スポーツ振興 ・マイレージ事業と同じように、参加すればポイントがたまるようにするなど、成果が感じられるような工夫をする ・社会教育という言葉、内容が、理解しにくい（敷居が高いと考えてしまう） ・具体的な例をあげて、町民に理解してもらう	いただいた意見を参考に、町民の参加促進に努めていきます。 なお、「社会教育」は、用語解説において説明しています。
11	6. 芸術文化振興 ・指定文化財を町主導で管理して行う（現状荒れはてた状態の所も見られる） ・廻った個所によってポイント又景品等（証明章等でもよい）を配布する（証拠はスマホで取った写真等で有効期限を設ける） ・学校及び幼稚園に協力を呼びかけ、清掃及び遠足など行事ごとに利用してもらう（その際由来などの説明があればいい） ・祭りの開催（町主導その際、学校、幼稚園等も参加してもらう小さいお祭り）あまり手間が掛からないもの ・広報などにも掲載、ポストカード等も作って配布か販売など	文化財の保存と活用は、郷土愛の醸成においても重要なものと認識しています。 いただいたご意見を参考として、町主導、かつ、町民のみなさんとの協働のもとで保存・活用の活動に取り組んでいきますので、引き続きご協力をお願いします。
12	7. 健康づくり ・以前勤めていた会社より、はるかに良い ・継続していただければ嬉しい ・そのよさをアピールしていく	引き続きさまざまな世代の町民の健康づくりを支援するとともに、町内外へのアピールにも努めていきます。
13	15. 農業振興 16. タウン・プロモーション ・農業物産直売店でんえんマルシェは、以前の店舗に比べて高い商品が多く、興味を引く商品	でんえんマルシェは、JA 邑楽館林が運営する施設であるため、ご意見として伝えます。アンテナショップについては、県内外イベ

	も無いと感じた。 ・町民広聴会の「東京のアンテナショップ」は良い案だが東京以外にも目を向けてはどうか。 ・でんえんマルシェで、近隣のスーパーが仕入れない地区（例えば四国、山陰）の商品を販売するのもありではないか（そちらの町と提携し、邑楽町の物も売り込む） ・農作物の SNS でのアピール（今なら特に米）	ントへの参加など、一層の PR、販売促進に努めていきます。
14	15. 農業振興 ・農業に従事する方々に従事補助金（国家事業）等が必要。他事業より少しでも利益と生活が確保される事が必要（若者を取り入れるため） ・終身雇用ができ、最低の生活の保障、作物が自分で作れるようになるまでの技術の指導（年数を設定、悪用する者がでてくる） ・現状日本の雇用は派遣が多く増え、いつ派遣切りになってもおかしくない状態で働いている人が多い	町として、「行政の取組」に示すことを実施していくとともに、国の農業政策に準じた支援を行っていきます。
15	14. 産業振興・17. 土地利用 ・大企業の工場誘致（特例扱い、騒音、県境保護等の条件付け） ・大泉町にてスバルの新工場建設の際に食い込まなかったのは前町長の失策だと思います（それなのに外国人のヤードばかり増えているという異常な状態。町民にとって害）	利根川新橋の建設による交通アクセス性の向上などを契機とした企業誘致、土地利用のあり方について、県や関係機関と戦略的に連携を進めていきます。
16	ペットパーク（仮称）建設 ・愛犬家愛猫家へのターゲット施設、ドッグラン、キャットランそれに併設し共に泊まれる施設、プール、診療所（すぐに対応出来るように 24 時間対応）、霊園等その際飼い主には、邑楽町の特産品を提供、すき焼き、しゃぶしゃぶ等、もちろんペット用も用意する ・ペットにかかる金額は最近はかなり多くなっており、家族の一員、子供以上の存在と捉えている人はかなり多い ・地域的にも首都圏や栃木県及び埼玉県からも来やすく、宿泊施設があれば休みも利用しやすい	いただいたご意見は、民間事業者が実施する内容であると考えているため、参考とさせていただきます。

	・自然環境豊かで安心、安全が必要 ・そのためには、住宅・住環境・安全でもヤード問題が密接に関係してきます ・他の地域、NPO団体等と協力し保護猫保護犬カフェ施設なども併設できれば町のアピールとしても有効であると考えます ・ペット同居可能な住居の提供（空き家利用）	
17	12. 安全対策 13. 住民相談 ・外国人、特殊詐欺・IT詐欺 ・特殊詐欺支払いに関する電話（金銭が絡む）が掛かって来たら、まずは相談という意識を植え付ける ・ポスター等の配布や標語、同時に相談や騙された事は、はずかしくない意識を持つようにする	町では、現在も、警察、防犯協会、学校、行政区などと連携した犯罪や防犯に関する情報発信や特殊詐欺対策機器等購入費補助制度などの安全対策を実施しており、今後も継続していきます。
18	22. 人権・共生 （多文化共生社会の実現） ・前提として、外国人住民が日本のルールに沿うのであれば、同じ場所に生活する事は問題なく可能だと考える ・ただの共生では不可能 ・外国人が日本に住みだした理由（一部抜粋） ・安全な国・自国より通貨の価値が高い ・現状、犯罪の増加、凶悪化、日本は貧困国 ・この中で、犯罪の増加、凶悪化は外国人の増加によるもの ・自分達思想を、日本のルールを無視して行うイスラム系の土葬等 ・今話題に上がっているアフリカ系では女性軽視（9歳以上での結婚等）彼らの文化圏では犯罪にならない ・ルール・思想の違いは複数存在する ・不起訴の数があまりにも多すぎる ・町として、日本のルールを身に着けて、日本人・外国人の自国の思想、ルールを町民が受け入れて暮らす方向 ・このどちらかの方向を町が決める必要があると考える	外国人住民の増加は本町に限らず全国的な傾向であり、今後もこの傾向は続くと考えています。そのため、本計画では、地域の一員として共生していくことを基本としています。 多文化共生の実現にはさまざまな問題があると考えますが、日本で生活するためのルールの周知や指導等、国や県、周辺市町、民間企業等とも連携しながら進めていきたいと考えています。
19	18. 住宅・住環境 19. 交通 20. 環境 21. 協働	ヤード問題については、多くの意見がある

22. 人権・共生 ・現状、ヤードが住宅街や大通りに点在し、騒音、異臭、汚い、スクラップ等が高く積み上がっている中で何が起きているか解らない（フロンガスの空气中放棄やエンジンオイルの地中廃棄等） ・354 号線大黒交差点周辺・長柄神社周辺・他にも複数ある ・正直外国人に占拠された町、大泉町よりひどいと感じる（大泉町はブラジルを体験できる町と良いアピールも行っている）（半面、外国人に占拠された町との悪いイメージもある） ・騒音で困った事が何度もあり、近所で葬儀があっても、お構いなしに騒音を立てて仕事をしている（ヤードを認めた前町長の失態この件以外も多々あるので責任をとらすべき） ・10 月の県の施行を待つのではなく、町としての条例及び対策が必要（定期的な立ち入り検査、もちろん事前通知なし、その際在留カードの提示も行う最終的には邑楽町から撤退） ・苦情を言っても「日本語わからない」「出ていけ」この言葉は、外国人がほとんど使ってくる ・この魔法の言葉は他の地域でも聞かれる ・ほとんどの日本人は、これで外国人怖い近寄りたくない、通報したら仕返しされる。なら逃げた方がいい（他の地域に引っ越し）になってしまう。外国人だけでなく夜中のコンビニ等でたむろしている日本人でも、怖いと感じるが、ヤードや外国人が住んでいる場所は、自分の生活圏にいるのだから引っ越ししかないと考える ・ひと昔前では、外国人に対する考えは今とは逆だった気がするが現状は、犯罪、横暴、怖いという考えが先にたつ ・日本のルールを理解し、そのルールで暮らしている外国籍の方は、非常に感銘を受け日本人以上にすばらしいと感じる（なじむ努力を行っている） ・ヤードがなく、日本のルールを守る外国人が暮	ことから、町としても積極的に対策を講じていくこととします。「20. 環境」の行政の取組を「不法投棄とヤード等対策の推進」とします。具体的な対策については、ご意見を参考に、県と連携しながら進めていきます。
---	--

	らす町になれば、それをアピール材料にすれば、近隣の町で同じような思いをしている人が、邑楽町で暮らすかもしれない ・ヤードの数も県内二番目（一位は二つの町の合計）という不名誉 ・現状、ヤード＝犯罪の温床、ヤードの町＝犯罪地域、つまり、安全、安心できない町と捉えられている（十数年前に引っ越して来た時の感想は、田舎、安全で安心で静か、空がきれい、最後までここで暮らせる、スーパーも近い、だったが、今は外国人がいっぱい、騒音、心配、危険、物を盗まれるかも、たまに引っ越しも考える） ・現状、邑楽町に帰って来てすぐ目に入るものはヤード、少し走ったらヤード、ヤードばかり ・他地域は大きな工場も有るので町の収益に繋がるが、ヤードばかりでは町の収益に繋がるのか？ ・邑楽町はベッドタウンと書かれていたが、その意味、目的は？寝に帰るだけの町なのか、自分の財産（金銭的な物だけではなく、精神的な物も含む）を預け心身共に休める町なのか？これからの町づくりの一つと考えていただければ幸いです ・交通・農道及び住宅地に近い速度表記がない道路での、ひどい速度超過の車をよく見かける ・不法投棄のより強固な取り締まり	
20	ソーラー発電 問題と課題 ・安価でリサイクルできない中国製（人権問題チベット人等の強制） ・製造時にCO₂の排出 ・廃棄時に環境破壊 ・メガソーラー、森林破壊し野生生物の住処を奪う、土砂崩れ、環境破壊、取り戻せない自然 意見・提言 ・個人が建物に設置することは否定しない（ある程度のもの） ・設置した土地はしばらく使い物にならない	本町において、住宅や公共施設等における太陽光パネル設置は再生可能エネルギー活用として推進していくこととしています。 遊休農地や平地林伐採を伴うメガソーラー開発については、「17. 土地利用」において、自然的土地利用の保全として記載しています。 なお、国のエネルギー政策に関するご意見については参考とさせていただきます。

	・メガソーラーによって利益を得たのは、中国企業とそれに伴う関係者、政治家も含まれる ・電気代は安くなるどころか、付随する税金をとられる事になった。特に森林環境税（まったく理解不能）電気代の高騰	
21	ネット関係の情報判断部署の設立 近年 I T 化が進み、様々な情報がネット上に、蔓延しており、それらの情報を有効利用する為に必要だと考えます ・他の部署と独立した回線を使用する（ウィルス感染した場合他の PC に移さない為、情報を入手する為には、閲覧サイトにウィルスが仕込まれている可能性がある、入手した情報は紙媒体にて扱う、USB を経路しての感染も有る為） ・アダルトサイトの閲覧は禁止、ただし広告があってもそこから情報を入手できるサイトがある為注意（アダルト動画の閲覧は禁止） ・ファクトチェック（真偽の検証）は必要 ・一人作業の禁止（ネットでの悪用を防ぐため）	ご意見のとおり、情報セキュリティは重要課題のひとつと認識しています。 町では、企画課が担当課として対応しており、「23. 行政効率化 D X」に記載しています。
22	人材の確保 ・スカウトの導入 ・年齢は問わず ・様々な特技を持った人材を確保しやすい ・様々な業務が可能になる ・ただし邑楽町に尽くす事が出来る人のみとする	多様化する社会課題に迅速に対応するためには町職員だけでは限界もあります。ご意見のとおり、知識や技能、専門性を有する人材の確保は重要と考えています。 このことは「23. 行政効率化 D X」に記載しており、人材育成と合わせて取り組んでいきます。
素案修正概要		
上記「実施機関の考え方」を参照		
問合先 ： 実施担当課・係名 企画課・企画調整係 電話番号：0276-88-5511 ファクシミリ：0276-89-0136 電子メール：plan@swan.town.ora.gunma.jp		